

⑥「被災者支援システム」導入について

「被災者支援システム」は、九十五年の阪神・淡路大震災の際に兵庫県西宮市が独自に構築しました。

その後、二〇〇九年に総務省から全国地方公共団体に「被災者支援システムVer.」をCD-ROMで無償配布するなど全国への利用促進が図られてきました。災害発生時に行政の素早い対応のため同システムを導入してはいいがでしょうか。

◎答弁：導入についてのシステム互換性などの問題があるが今後導入、もしくは独自の方法で対策を進める。

二、館山市の産業振興について

市長の平成二十三年度施政方針の中に、「本年度は館山市の将来像『輝く人・美しい自然・元気なまち館山』を掲げた『館山市基本構想』の仕上げの五ヶ年計画となる第三期基本計画がスタート」とあります。そして、この基本計画の視点は「活力あるふるさと館山の実現」であるとし、重点政策の三項目のひとつに「経済活性化によるまちづくり」とあります。

平成二十一年度館山市市民意識調査報告書によりますと、館山市に生活する満足度評価では、市内どの地域においても最下位、つまり、大変不満である項目が「雇用の創出」でありま

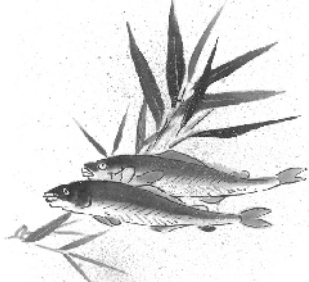
す。それに続くのが「商工業および農林水産業の振興」です。

つまり、ほぼすべての市民が、館山市の雇用の創出と産業振興に対して不満を抱いているのであります。館山の活性化のためには一人ひとりの生活基盤の安定、つまり、働きたい人がしっかりと働ける場を作る事。館山で生きていくための雇用の場を作り出す事、これが最重要であると考えます。

①農業の活性化について

私は三〇数年、農業に従事してまいりました。

地域農業の発展は私の願いです。同じく漁業も自然の影響を受け甚だ不安定な要素をかかえる



一次産業として、同様に発展的な将来像をえがいてまいりたいと思います。六次産業・農工商連携・観光という前に、館山の農漁業の発展の為の具体的な支援策についてお伺いします。また、後継者の育成についての考えをお聞かせ下さい。

◎答弁：一次産業の維持強化を基本としつつも、六次産業化を併せて推進することが重要。加工や直接販売等による付加

価値の向上やブランド化を推進していく。また、若い世代が就業しやすい環境づくりに魅力ある農漁業とする。

②六次産業化、農工商連携について

農産物の流通は市場流通と市場外流通、つまり直売などです。館山の一次産業は、この二本立てをうまく生かしていくことが大事であると思います。市、市の農業政策として打ち出す六次産業化、農工商連携の現状についてどの程度施策が進んでいるか伺います。

◎答弁：国の支援策「六次産業化法」の施行により、資金の貸付や補助制度が創設されている。また公設卸売市場用地を六次産業化推進モデル拠点として整備していく。

③公設卸売市場用地の活用について

平成二十一年度第三回定例会にて、同様に公設卸売市場用地の活用について質問が出され、農業を中心とした交流拠点施設として、加工・販売・レストラン等の六次産業化のモデル拠点としたいとの回答でありました。その後の進捗状況をお聞かせ下さい。

◎答弁：地元区や地権者へ概要を説明した。今後は地域農業活性化懇談会を開催し、様々な意見を集め参考とする。

④観光農業について

六次産業化や公設市場用地の活用

を議論すれば、当然観光農業へと繋がってきますが、私は現在のところ館山の観光特産品以外に一人立ち出来るものは育っていないと思います。安定収入につながる観光一次産業は、ハードもソフトもかなり整備されなければ発展出来ない高度な分野と考えます。市の今後の戦略をお伺いします。

◎答弁：大規模な観光施設への支援はもとより、小規模な農漁業体験なども支援して、収益の向上を図りながら、観光客のニーズに対応できるよう、情報を広く発信していきたい。

⑤「道の駅」構想について

観光地安房には数々の観光施設がありますが、いまや「道の駅」も実質、観光施設の位置付であります。館山市では南房バラダイスが道の駅の看板を掲げました。

平砂浦海岸一帯の景観と相まってその存在価値は重要であります。更に館山の自然や産業をアピールするため、あるいは情報提供の場として、「道の駅」をもう一、二カ所作る必要を感じますが、市の考えを伺います。

◎答弁：道の駅は休憩施設と地域振興施設が一体となった施設であり、活用を検討中の公設卸売市場用地も、道の駅を前提に取り組むことは、経済活性化に有効であると考えている。

三、高齢化対策について

今後、更に進む高齢化社会に対して、様々な施策を持つて柔軟に対応することが大切であると思います。郷土の先輩に館山で良かったと思っていただけのために温かな対応を望みます。そこで二点ほどお伺い致します。

①次期高齢者保健福祉計画の策定と今後の進め方について

今年度の福祉課の主要な施策として「次期高齢者保健福祉計画の策定」と

あり、三カ年計画で押し進めるとのことです。今後の進め方と、策定に際しての基本理念をお伺いします。

また、行財政改革委員会から答申のあった老人福祉センターの廃止について市の考えをお聞かせ下さい。

◎答弁：高齢者保健福祉計画は、介護保険事業計画を含み、高齢者が心も身体も健やかに過せるよう計画を策定する。市民や保健医療福祉関係者の意向を反映させるため、計画作成委員会の設置を予定。老人福祉センターは、行財政改革委員会の答申を踏まえ、廃止する方向。

復興への強き祈り



東北の人々の忍耐強さと復興への決意は、闇を裂く希望の光として日本人すべての心に、共に再生しゆかんとした未来への前進を確信させてくれます。それを確かなものとするための政治の条件はなにか。それは国がこの難局に当たって万全な体制で望むという政治姿勢と、現場の状況をしっかりと見据え迅速で具体的な方策が打たれることであります。そのためには何としても強力なリーダーシップが不可欠です。

今回、阪神淡路大震災の教訓が生かされたのは、初動段階で自衛隊等の国内救援組織がいち早く動いたこと、海外からの救助活動の受け入れが速やかであったことなどです。一方で、これらを統括し人的・物的・経済的な支援を有効に配分し、更に膨大な処理課題を政府主導で的確に行うことなど、現段階で取り得る最良の決断と今後の見通しを明確に示すことにお

いては、甚だお粗末というほかありません。

先日、放言・暴言であつさり辞任に迫りやられた松本復興相しかり、海江田経産相の辞意表明しかり、政権崩壊の深刻さを象徴しています。今ほどの政党がカジ取りをするかというより、国も県も市町村も一体となつてこの難局を乗り越える時。ともかく復興への一致団結が国民の望むところであり、新生日本の前進にぜひ期待したいと思えます。

地震・津波・原発事故の三重苦を乗り越える知恵と行動力を、日本人は十分に持っている確信します。私達が今なすべきことは、被災地への思いをいだきながら、自らの足元をしっかりと固めること。そして、一日も早く東北や関東が見事な復興を遂げ、その一人ひとりがかつての生活基盤やコミュニティを取り戻すこと。それが、「立ち上がれ日本」を応援してくれる世界への最大の感謝となることでしょう。

者施策の基本理念と、基本目標の一つ「生き生き支えあいのまち館山」に逆行するものと思えますが、市のお考えをお聞かせいたします。

◎答弁：老人クラブは平成十三年には九六団体、四四八六。本年四月一日現在では七〇団体二八二二人と大幅に減少し、これは全国的な傾向である。老人クラブ活動の活性化と会員数の拡大は「いきいき支えあいのまち」づくりを推進するためにも重要であり、館山市社会福祉協議会とともに入会の誘いと、魅力ある活動が展開できるよう支援していきたい。

◇ ◆ ◇

○地震・津波対策の見直しについての関連質疑（他議員）

①新たな緊急避難場所と避難経路の確保および案内表示板の設置について。
②防災無線放送の設置と改善。個別受信機の配布について。
③地盤高表示板の増設と備蓄品の確保について。
④市民の意見や要望の把握、防災マップ・防災マニュアルの見直し。（今回は防災に関する質問が重なりましたが、市はいずれも前向きに取り組みと回答。）
○行財政改革委員会の答申に関して（他議員）

①老人福祉センター温水プールの存続について。
◎答弁：老人福祉センターは廃止の方角であるが、他の施設利用など代替案を検討する。温水プールは当面開放日等の見直しで経費を削減しつつ運営。